

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

豊川市地域公共交通会議

平成21年2月13日設置

フィーダー系統 平成29年7月 確保維持計画策定

(1) 地域の特Ⓐ性

豊川市では合併した旧1市4町の地域の平準を図る目的で豊川市コミュニティバスを平成23年11月1日に9路線で運行を開始した。平成24年10月1日には1路線を新たに加え、現在は10路線で市内の移動の足を確保している。

(2)地域公共交通に関する目標:豊川市地域公共交通網形成計画
(平成28年3月策定)

1)期間:平成28年度～平成32年度

2) 将来像

『市域全体を一体化し、みんなで支える公共交通ネットワークづくり』

3) 基本方針

①市域全体の一体性を高める路線と地域に合った路線を、それぞれの役割に応じたサービスで運行

②公共交通の利便性を高め、移動制約者が移動しやすい交通体系

③行政、交通事業者、市民・地域・利用者が、それぞれの役割により協働で公共交通を支える仕組みづくり

④定期的な公共交通の評価の実施、継続的な路線の見直し・改善

4) 目標

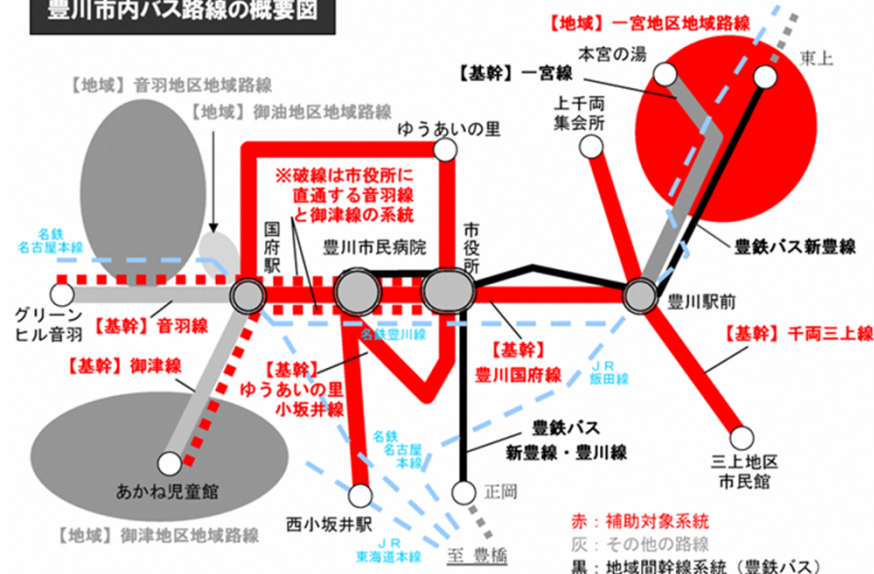
目 標		平成26年度 実績	数 値 目 標	
			平成28年度	平成32年度
目標1	市内を運行するバス路線の利用者数の増加	8.3万人/年	11万人/年	13万人/年
目標2	公共交通の利便性の市民満足度の向上	43.4%	50%	52%
目標3	地域主体で検討したバス路線の運行実施地域数の増加	4地域	5地域	6地域
目標4	市内を運行するバス路線の収支率の向上	10.7%	15%	17%

5) 目標を達成するために行う事業・実施主体

- ・豊川市地域公共交通網形成計画では、以下の11の事業を位置づけている。

スケジュール・年度 事業項目		主な内容と展開スケジュール				
		H28	H29	H30	H31	H32
バス 交通 関連 事業	① 基幹路線の改善・運行	通院・買物目的などの日中の移動ニーズへの対応				
		通勤・通学目的の移動ニーズへの対応				
	② 地域路線の運行	通院・買物目的などの日中の移動ニーズに対応し運行				
	③ 交通結節点の整備	ベンチ、屋根、照明等の整備 乗継情報の提供、運行情報提供システムの導入、バリアフリー化の推進				
利用 促進 関連 事業	④ バリアフリー対応車両の導入	バリアフリー対応車両の導入				
	⑤ バス停の待合環境改善	ベンチ、屋根、照明等の整備 運行情報提供システムの導入				
	⑥ 新たな料金体系制度の導入	広域・基幹・地域路線との間で乗継割引を導入 広域・基幹・地域路線の一体的な料金体系の導入				
	⑦ 新たな運賃支払い方式の導入	1日乗車券・定期券・ICカード*の導入				
	⑧ 公共交通案内の充実	公共交通マップ、時刻表等の作成				
	⑨ 周知・広報活動の実施	ホームページ、チラシ、ポスターなどによる周知、イベント開催による啓発				
	⑩ 利用促進活動の実施	イベント開催・モビリティマネジメント*実施による啓発				
	⑪ 事業評価の実施	各様の調査を行い、事業の評価を実施				

豊川市内バス路線の概要図



(1)評価の考え方、評価スケジュール

①基幹路線の評価：毎年の評価

- ・運行本数、運行ダイヤ、運行ルート、バス停数・位置の軽微な見直しを目的とした評価は、毎年実施。利用者数、収支率の目標指標により総合的に評価を行い、必要に応じて改善。

②基幹路線の評価：抜本的な改善のための評価

- ・計画の目標達成度合の検証や中長期的な視点での運行ルートやサービス水準の見直しを目的とした評価は、平成31年度に実施予定。利用者数、満足度、収支率の目標指標や詳細な利用者数調査及び利用者・市民アンケート調査(平成30年度実施予定)により総合的に評価を行い、必要に応じて改善。

③地域路線の評価

- ・地域路線の評価は適宜実施。利用者数、収支率の目標指標により総合的に評価を行い、必要に応じて改善。

④その他各事業の評価

- ・前頁の目標を達成するために行う11の事業のうち、「基幹路線の改善・運行」、「地域路線の運行」を除く各事業の評価は、取組みの実施状況などを考慮して実施。必要に応じて改善。

評価スケジュール

実施項目	年度	計画期間				
		H28	H29	H30	H31	H32
地域公共交通会議		●	●	●	●	●
日常的利用者数調査		●	●	●	●	●
詳細な利用者数調査				●		
利用者アンケート				●		
市民アンケート				●		
基幹路線の評価					●	
基幹路線の改善		□	□	□	□	□
地域路線の評価・改善		□	□	□	□	□
その他各事業の評価・改善		□	□	□	□	□
計画の評価						●

●：実施 □：必要に応じて適宜実施

(2)地域公共交通確保維持改善計画の評価指標と評価基準

- ・地域公共交通確保維持改善計画の評価は、地域公共交通網形成計画との整合を図り、前頁に示す4つ目標に基づいて評価。
- ・基準年(H28、H32)の中間年の目標値は直線補完で設定。

(3)路線別の評価

①評価方法

- ・路線別の評価は、4つ目標のうち「利用者数」と「収支率」の数値目標の達成状況で評価。

②目標値の設定

- ・路線別の目標値は、豊川市コミュニティバスの運行開始当時に設定した予測需要量と運行経費の見込み値に基づく収支率を目標値として設定。
- ・基準年(H28、H32)の中間年の目標値は直線補完で設定。

	フィードバックシステム	単位	H28	H29	H30	H31	H32
			基準年	直線補完	直線補完	直線補完	基準年
目標1	市域全体	人/年	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000
	豊川国府線	○ 人/日	73	77	80	83	87
	千両三上線	○ 人/日	32	33	35	36	38
	ゆうあいの里小坂井線	○ 人/日	34	36	37	39	40
	一宮線	人/日	22	23	24	25	26
	音羽線	○ 人/日	31	32	33	35	36
	御津線	○ 人/日	24	26	27	28	29
	音羽地区地域路線	人/日	31	32	33	35	36
	御津地区地域路線	人/日	61	64	67	69	72
	一宮地区地域路線	○ 人/日	40	42	44	46	48
	御油地区地域路線	人/日	22	23	24	25	26
目標2	市域全体	%	50.0	50.5	51.0	51.5	52.0
目標3	市域全体	%	5	5	5	5	6
目標4	市域全体	%	15.0	15.5	16.0	16.5	17.0
	豊川国府線	○ %	16.5	17.1	17.6	18.2	18.7
	千両三上線	○ %	12.8	13.2	13.7	14.1	14.5
	ゆうあいの里小坂井線	○ %	14.7	15.1	15.6	16.1	16.6
	一宮線	%	10.4	10.7	11.1	11.4	11.8
	音羽線	○ %	10.6	11.0	11.3	11.7	12.0
	御津線	○ %	8.9	9.2	9.5	9.8	10.1
	音羽地区地域路線	%	19.6	20.3	20.9	21.6	22.2
	御津地区地域路線	%	17.4	18.0	18.6	19.2	19.7
	一宮地区地域路線	○ %	17.4	18.0	18.6	19.2	19.7
	御油地区地域路線	%	17.3	17.9	18.5	19.0	19.6

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取り組み内容

4

【路線・運賃体系の変更を行い、平成28年10月より実行】

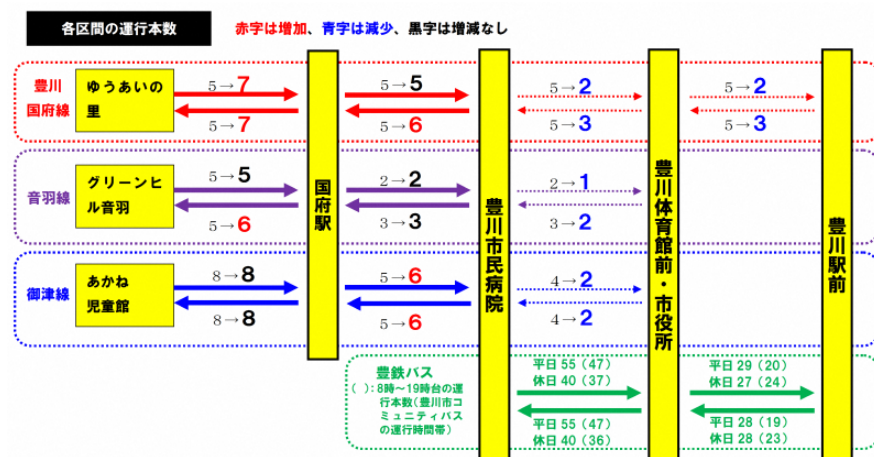
(1)取組み経緯

- ・運行本数の少なさの不満に対し、豊川市コミュニティバスは1路線を1台で運行し、大幅な増便は困難な状況にあった。
- ・そこで、豊川駅前～豊川市民病院間における豊川国府線、音羽線、御津線と豊鉄バス新豊線・豊川線の並走区間の効率化を図ることとした。

(2)改善の内容

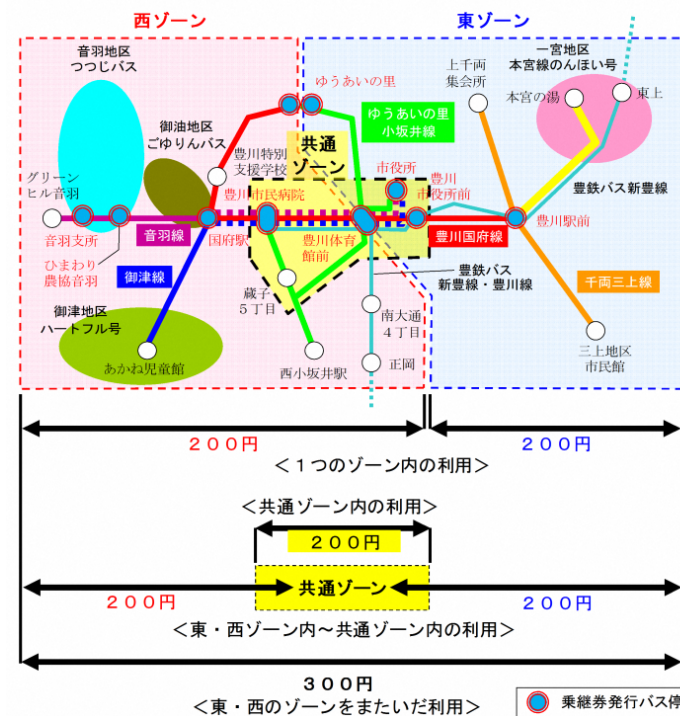
その1)路線体系の改善

- ・豊川市民病院を新たな交通結節点として、東西で豊川市コミュニティバスと豊鉄バス新豊線・豊川線で役割分担を図り、民間路線バスも含めた一体の公共交通ネットワークを構築した。
- ・豊川市コミュニティバスは豊川市民病院より東側区間(豊川駅方面)の運行本数を減便し、豊川市民病院より西側区間(国府駅方面)を増便することで、運行本数の不満の緩和を図った。



その2)運賃体系の改善

- ・市内各地からニーズの高い豊川市民病院まで同じ運賃で移動できるように、市の中心部に新たに共通ゾーンを設定し、運賃負担の軽減を図った。
- ・さらに、豊川市コミュニティバスと豊鉄バス新豊線・豊川線が、一体となった市内の公共交通ネットワークとして利用しやすいように、運賃面での乗継負担を軽減するため、共通1日フリー乗車券の通年運用化を図った。



【地域路線の利用促進に向けた地域協議会意見交換会・勉強会】

- ・地域路線の利用促進を目指し、地域のバスを守る意識を高めるため、地域協議会役員との意見交換会・勉強会を実施した。
- ・地域路線用のガイドブックや他路線との乗継の待ち時間を掲載した時刻表を作成し、地域内へ各戸配布を行い利用促進を図った。
- ・地域主体で運行する豊川市コミュニティバスの地域路線は、利用者数や収支率の目標値に対する達成度が低い。

4. 具体的取組みに対する評価

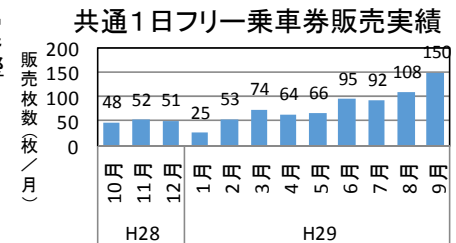
5

(1) 豊川市コミュニティバスに関する評価

- ・平成28年10月の路線・運賃体系の変更後は、変更前に比べて利用者数は増加し、一定に効果は得られているが利用者数の目標値に及んでいない。
- ・収支率は、昨年度の11.8%から9.9%に悪化した。要因は変更直後から平成29年1月までは利用者数が前年同月と比べて下回る状況が続いたことと、共通ゾーンや共通1日フリー乗車券の導入による利用者1人当たりの実収率の低下が影響している。

(2) 路線・運賃体系変更後の評価

- ・平成28年10月からの変更後は、豊川市コミュニティバスだけでなく、豊鉄バス新豊線・豊川線の利用者数も増加に転じた。（結果の詳細は後述）
- ・民間路線バスも考慮した路線・運賃体系の変更が良い方向に影響している。
- ・共通1日フリー乗車券の販売数やバス路線の乗継利用は増加し変更が浸透しつつある。



市域全体	目 標		数値目標：H28	利用実績（H28年実績）と達成状況
	目標1	市内を運行するバス路線の利用者数の増加	110,000人/年	87,948人/年（達成度：80%）：H28.10～H29.9
	目標2	公共交通の利便性の市民満足度の向上	50.0%	43.4%（達成度：87%）：H25.4～H26.3
	目標3	地域主体で検討したバス路線の運行実施地域数の増加	5地域	4地域（達成度：80%）：H28.4～H29.3
	目標4	市内を運行するバス路線の収支率の向上	15.0%	9.9%（達成度：66%）：H28.4～H29.3

路線別	区分	路線名	利用者数			収支率		
			目標	実績	達成度	目標	実績	達成度
	基幹路線	豊川国府線	73人/日	49人/日	67%	16.5%	8.0%	48%
		千両三上線	32人/日	34人/日	107%	12.8%	15.8%	123%
		ゆうあいの里小坂井線	34人/日	27人/日	79%	14.7%	12.2%	83%
		一宮線	22人/日	35人/日	159%	10.4%	7.1%	69%
		音羽線	31人/日	26人/日	85%	10.6%	11.2%	105%
		御津線	24人/日	22人/日	90%	8.9%	8.6%	97%
	地域路線	音羽地区地域路線	31人/日	27人/日	88%	19.6%	13.2%	67%
		御津地区地域路線	61人/日	10人/日	16%	17.4%	4.1%	24%
		一宮地区地域路線	40人/日	25人/日	62%	17.4%	7.3%	42%
		御油地区地域路線	22人/日	17人/日	77%	17.3%	9.2%	53%

各表とも達成度が100%以上のものを赤字で表示

【路線・運賃体系の変更の効果検証】

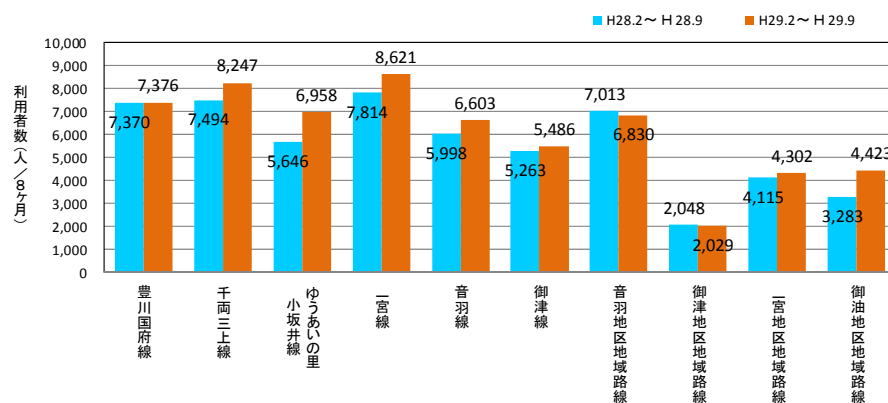
- ・効果検証のために、市内バス路線のOD調査を簡易なアンケート調査を付随して実施した。

(1) 利用者数の変化

- ・路線・運賃体系の変更前後の利用者数の比較を、変更が利用者に浸透し始めたと考えられる平成29年2月～9月と、変更前は平成28年2月～9月で比較を行った。

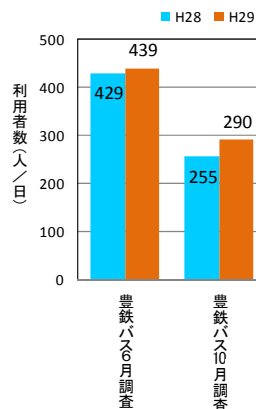
① 豊川市コミュニティバス

- ・基幹路線・地域路線の10路線のうち、変更後は音羽地区地域路線と御津地区地域路線を除く8路線で変更前を上回った。



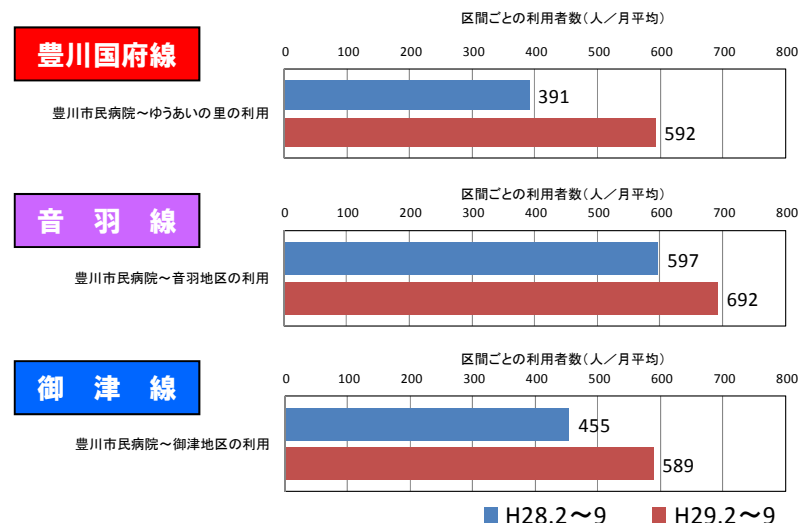
② 豊鉄バス新豊線・豊川線

- ・豊川市内バス停での乗車利用者数は6月(豊鉄バス調査実施)と10月のそれぞれのOD調査結果において、変更後の利用者が変更前を上回った。



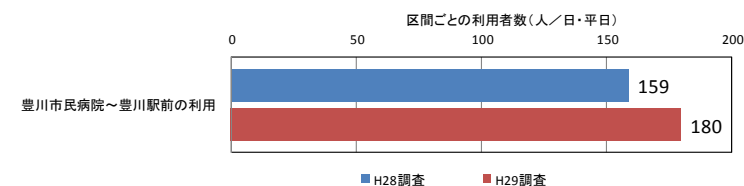
(2) 豊川国府線・音羽線・御津線と豊鉄バス新豊線・豊川線の利用者数の変化

- ・豊川市コミュニティバスで路線の変更度合いが大きい豊川国府線・音羽線・御津線では、豊川市民病院より西側の区間で変更後の利用者が変更前を上回り、路線体系の変更で目指した一定の効果が得られた。
- ・豊鉄バス新豊線・豊川線では、豊川市コミュニティバスが減便を図った区間、及び共通ゾーン導入区間が含まれる豊川市民病院～豊川駅前の利用者数は昨年度のOD調査結果を上回り、幹線系統においても一定の効果が得られた。



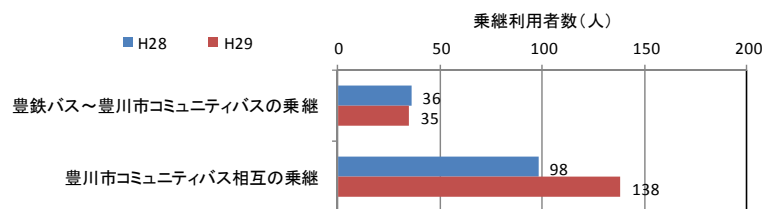
豊鉄バス新豊線・豊川線：豊川市内の内々ODのみ抽出(平日)

※ 10月実施のOD調査結果より整理

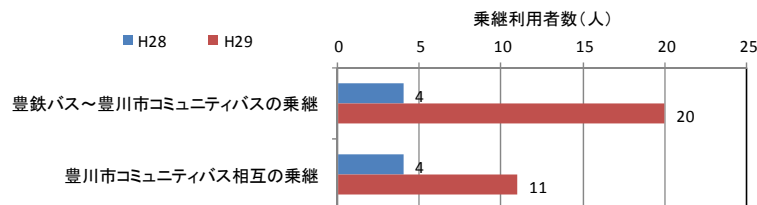


【乗継利用の変化の状況】

・市内の路線全体でみた場合、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者に大きな変化はみられないが、路線体系変更後に新たな交通結節点となった豊川市民病院バス停では、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者が増加し、乗継利用の浸透が進んだ。



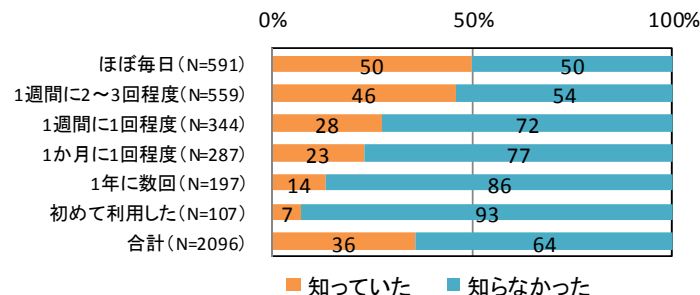
OD調査期間(5日間)のバスの乗継利用の変化



OD調査期間(5日間)の豊川市民病院バス停における乗継利用の変化

課題と対応その2: 共通ゾーンのPR

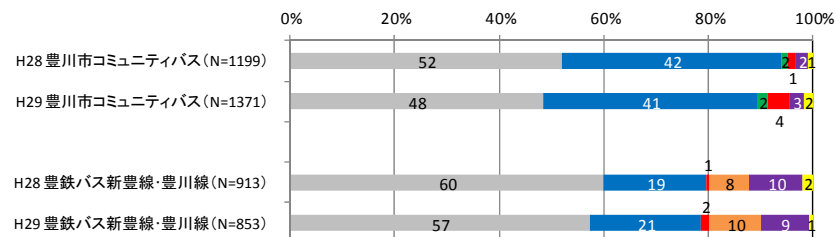
・右図のとおりPRポスターを作成したが、平成28年度と平成29年度で利用頻度が高い方の認知度はやや向上したが、利用頻度が低い方の「知らない」の回答割合は多く、PRの継続が必要。



利用頻度別の共通ゾーンの認知度の回答割合

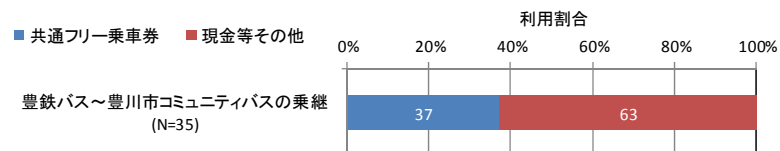
課題と対応その1: 共通1日フリー乗車券利用のお得感のPR

・共通1日フリー乗車券の利用割合は、平成29年度は平成28年度よりやや増加したが、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者での利用割合は37%に留まっており、PRの継続が必要。



平成28年度と平成29年度の運賃支払い方法の比較

豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者の共通1日フリー乗車券利用割合



【PRポスター】



平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

豊川市地域公共交通会議

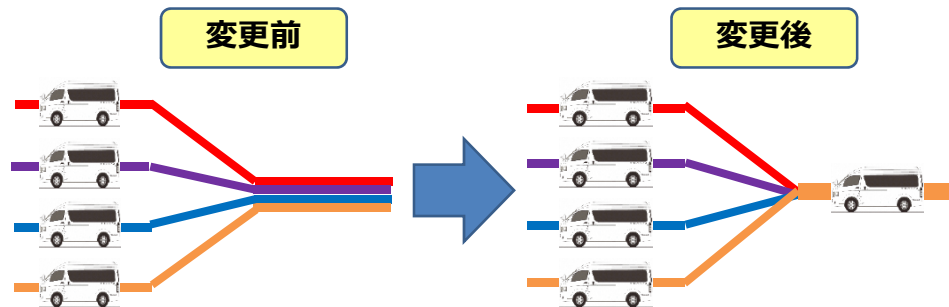
平成21年2月13日設置

フィーダー系統 平成29年7月 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
平成28年10月、豊川市民病院や市役所を拠点とした路線再編をはじめ、運賃の「共通ゾーン」設定、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスの乗り継ぎ負担軽減のための「豊川市1日フリー乗車券」の通年化など、利便性向上に向けた路線の見直しや継続した利用促進策の取組を行うと共に、再編後の評価を適切に実施していることについて評価。 今後は、共通ゾーン運賃の認知度の向上や1日フリー乗車券の周知を行うとともに、関係市町や事業者との連携により広域幹線の利用促進の取組に期待。	「共通ゾーン」の設定や、「豊川市1日フリー乗車券」に関するPRポスターを平成29年3月に作成し、同年4月より市内主要施設等に掲載を行った。 平成28年10月からの路線・運賃体系変更において、音羽地区地域路線で鉄道との接続が不便であることが判明し、運行ダイヤの一部改正を行い、平成29年10月1日より、新しいダイヤでの運行を開始し、利便性の向上を図った。 広域路線の利用促進は、平成24年度から継続して夏休み期間中に小学生が一律50円で利用できる利用促進事業を、豊鉄バスを含めた東三河地域全体で取り組み、バスで広域的な移動体験しやすい環境づくりを行った。	平成29年10月実施のOD調査と簡易アンケートで、認知度が十分でないことが明らかとなった。 平成29年度は、バスだけでなく市内公共交通全体の利用促進に向けたPRポスターを作成し、引き続き利用促進活動を展開する。 また、御津線では国道1号の交通渋滞により遅延幅が大きくなりつつあり、バス同士の接続ができないことも散見されることから、交通事情を考慮した運行ダイヤの改善に取り組む。 「夏休み小学生50円バス」の利用促進事業は今後も継続する。今年度は期間中の利用者数が減少したため、利用の向上を目指して周知方法の改善を行う。 また、豊橋市と豊川市において、行政界を跨ぐような住民の生活圏を踏まえた移動への対応の検討を行う。
形成計画の評価を行うためのOD調査をはじめ、バスマップやポケット時刻表・利用促進資料やポスターの作成など事業を的確に遂行したことにより、利用者数・収支率とも改善していることを評価。 引き続き、利用者の増加や収支率の目標達成に向け網形成計画に定められた事業を着実に実施し、地域住民との協働による利用促進策の実施、持続可能な公共交通ネットワークの構築を期待。	平成28年10月からの路線・運賃体系変更の効果検証のため、平成29年10月24～28日にOD調査と簡易アンケートを行った。 また、平成29年9月27日には、昨年に引き続き地域住民との協働による利用促進策の実施に向け、地域協議会意見交換会・勉強会を開催した。	網形成計画は平成32年度に計画期間の満了を迎えるため、網形成計画の評価スケジュールに基づき平成30年度に市民アンケート調査と鉄道・バスなど市内公共交通利用者に対するアンケート調査を行い、計画の評価と基幹路線・地域路線の評価を実施し、次期網形成計画の策定に向けて取り組む。 目標の達成状況が厳しい地域路線については、抜本的に路線体系を見直すことも含めて、協議・検討を行う。

【路線体系の変更内容】

- ・フィーダー系統と地域間幹線系統が一体となった交通網を構築
- ・豊川市民病院より東側の区間における豊川市コミュニティバスと豊鉄バス新豊線・豊川線の並走を基本的に解消した。
- ・豊川市コミュニティバスは、豊川市民病院より東側の区間を減便し、移動ニーズの高い西側の区間を増便した。



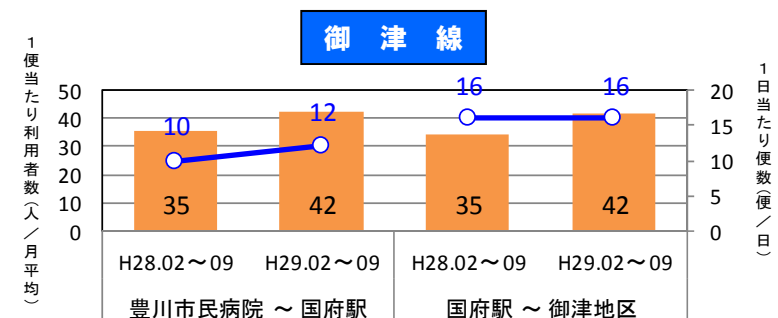
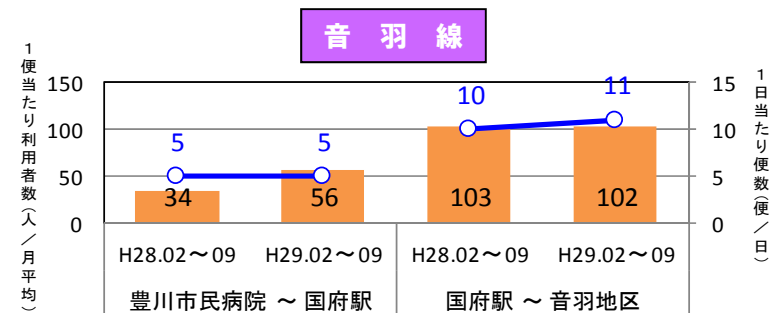
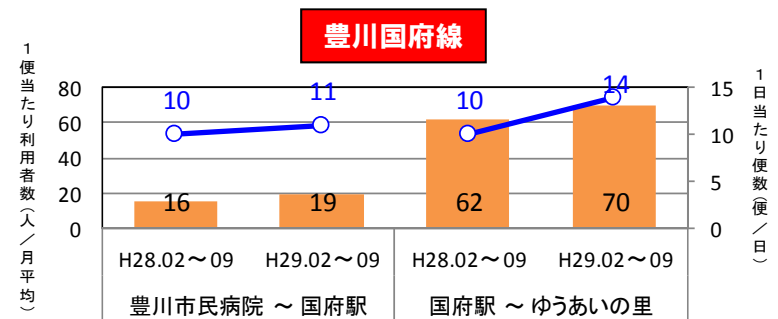
【路線体系の変更後の利用者数】

- ・市内全体のバス利用者が増加
- ・豊川市民病院より東側の区間については、乗継利用が浸透し、豊鉄バス新豊線・豊川線主体の運行体系となった。

	西側の区間	東側の区間	市内全体
豊川市コミュニティバス	増	減	増
豊鉄バス新豊線・豊川線	—	増	増
市内全体	増	横ばい	増

【1便当たりの利用者数】

- ・フィーダー系統と地域間幹線系統が一体となった交通網を構築
- ・豊川市コミュニティバスでは、豊川市民病院より西側の区間の1便当たり利用者数も増加した。



1便当たり利用者数 (人/月平均) 1日当たり便数 (便/日)